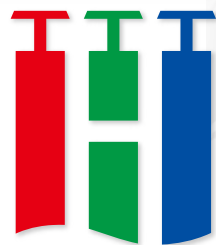


特集 **2**



HAMAMATSU  
APBDA2018

期間  
**2018  
7.19-22**

# APBDA

## 第20回記念アジア・太平洋吹奏楽大会

# を見に行こう!

ユネスコから認定を受けた世界吹奏楽会議(World Association for Symphonic Bands and Ensemble)に加盟するアジア・オセアニア9か国3地域が、吹奏楽レベルの向上と、指導者・愛好家の交流などを目的として隔年で集まるイベントです。この7月浜松で開催する第20回大会。各国を代表するブラスバンドの響きにご期待ください。



### ■大会スケジュール

日付	場所	公演時間	タイトル	出演/内容
7/19	中ホール	18:00-19:30	オープニングコンサート	フィルハーモニックウインズ浜松 浜松市内で活躍するプロの吹奏楽団による歓迎コンサート
7/20	ギャラリーモール ソラモ	17:00-19:30	プロムナードコンサート (入場自由・荒天開催中止)	海外6団体 <b>A B D E H M</b> 海外出場バンドが駅前オープンスペース[ソラモ]で行う屋外コンサート
	1.浜北文化センター 2.浜松市立高校講堂 3.三ヶ日文化ホール 4.雄踏文化センター	17:30-19:30	サテライトコンサート1~4 (入場無料・要整理券)	各会場ごと海外団体と市内中・高校生バンド 1. <b>C J</b> 2. <b>I</b> 3. <b>K</b> 4. <b>N</b> 市内各地域の中・高校生バンドとの交流コンサート
7/21	コンgresセンター 41会議室	9:30-12:00	シンポジウム~「アジア・オセアニア圏の吹奏楽の現在と未来」さらなる発展を願って~(要整理券)	葉樹涵(台湾)、秋山紀夫、伊藤康英(浜松ゆかりの芸術家)ほか APBDA名誉理事長による基調講演、APBDA組織の現状と問題点、パネルディスカッションなど。
7/22	大ホール	13:00-17:20	メインコンサート1日目	海外6団体 <b>B D E I J K N</b> 浜松聖星高等学校吹奏楽部、ヤマハ吹奏楽団 各国を代表する青少年吹奏楽団による個性あふれる演奏。 浜松を代表する2団体も出演。
	大ホール	10:00-16:45	メインコンサート2日目	海外7団体 <b>A C D E F G M</b> 、浜松市小学校合同吹奏楽団、 開成中学校吹奏楽部、浜松商業高等学校吹奏楽部、尚美ウィンドオーケストラ 各国を代表する青少年吹奏楽団による個性あふれる演奏。 浜松を代表する3団体と国内有数の学生バンドも出演。
	大ホール	17:15-18:55	クロージングコンサート*	台南市吹奏楽団、浜松市ユース選抜吹奏楽団 次の開催地台南市(台湾)へ引き継ぐクロージングセレモニーとコンサート

※有料公演は全席自由：一般1,000円、高校生以下500円。有料公演は未就学児入場不可。※クロージングコンサートは要整理券またはメインコンサート2日目半券が必要。

## APBDAの成り立ちと今回の見どころについて 名誉会長の秋山紀夫さんに聞きました。

2018年3月15日取材 文・写真：浜松市文化振興財団

### ■APBDA発足のきっかけ

日本で吹奏楽が盛んになったのは戦後。昭和40年代、当時の日本はブラスバンド(金管合奏)と言って木管楽器が少なく金管中心でした。その時すでに成熟していたアメリカのバンド指導者に学び、「まず楽器の編成から変えること」「日本人の作品も演奏するように」とアドバイスされたのです。当時からあった「全日本吹奏楽連盟」では、技術や編成の理論的な面までは手がまわらなかったため、まず指導者の意識から変えようと「日本吹奏楽指導者協会」を立ち上げました。アメリカへ視察に行き、指導者が様々なこと吸収して広めたことが、現在の吹奏楽界の隆盛につながったのです。

アジアは貧しくて吹奏楽の活動が出来ない地域もあったのですが、日本はアメリカ人の指揮者・指導者を招き、いち早く勉強をしたので作曲や技術的なことを早く取り入れることができました。韓国は軍事教練にバンドが必要だったという理由もあって日本に次いで吹奏楽が広まった国です。その後もアジア諸国で日本の現状を伝え、韓国や台湾、シンガポール、フィリピンでも指導者協会が作られていきました。



### ■日本を筆頭にアジア各国へ

当時は、各国ともまだ戦争などから立ち直っていく途上。香港やマカオは欧米の支配下にあったし、シンガポールはやっと独立しかけた頃。

### ■出場団体の特色

アジアのバンドは、日本の呼びかけに答えてここ2-30年でだんだんと盛り上がってきました。市民バンドが盛んなのは、香港や台湾です。特に台湾は、日本に次いでアジアで2番目にバンドが多い。小学校から大学まで組織的に活動してコンクールもやっています。韓国は長い歴史があるけれど、受験勉強が盛んになる中学、高校になると部活動ができなくなり、バンドが減ってしまいます。中国は数は多いですが、地方ごとバラバラに活動していて全国的な把握ができていません。また、軍楽隊出身の方が指導者なので、どちらかというと硬く勇まし

